

スペシャルオリンピックス日本・兵庫



スペシャルオリンピックス(SO)とは知的障がいのある人たちに、日常的なスポーツトレーニングと、その成果の発表の場である競技会を、年間を通じて提供し、社会参加を応援する国際的なスポーツ組織です。

笑顔の数だけ夢がある

すまいる

明日も笑顔で

ニュースレター

2021年/12月号

スペシャルオリンピックス日本・兵庫  
発行: 広報委員会

兵庫事務局  
〒659-0003 芦屋市奥池町33-5  
mail : hyogo@son.or.jp  
URL : <https://www.sonhyogo.jp/>

## ご挨拶



理事長 三宮秀介

今年度より、武田壽子理事長のあとを受けてSON・兵庫の第4代の理事長に就任いたしました。77歳の老骨に鞭打って、精一杯皆様のお役に立ちたいと思っていますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。緊急事態宣言が解除され、兵庫県のコロナ新規感染者数も大幅に減少してきましたので、日常トレーニングを再開することといたしました。ただ、トレーニング再開にあたっては、SON及びSON・兵庫のガイドラインの順守を徹底していただき、感染防止に細心の注意を払っていただきたいと思います。一日も早く皆様のはじけるような笑顔に出会えることを楽しみにしています。



副理事長 佐々木光夫

我々は、コロナ禍の中ほぼ2年間にわたり活動を休止。漸く11月から活動再開の方向が見えてきました。この間、我々は日常スポーツ活動の大切さに気付かされました。そして、スペシャルオリンピックス(SO)はアスリート(知的障がいを持つ人たち)とファミリー、ボランティアの三者によって支えられ、作りあげられているという事やそれぞれの絆の大切さについても深く学ぶ事が出来ました。2022年はアスリートの成長と共にSOを取り巻く全ての人が明るく、楽しく、そして元気に活動に取り組める事を願っております。



副理事長 日下孝明

1年半にも及ぶコロナ自粛がやっと明け、理事長からの活動許可も出ました。幸いなことにアスリートの感染報告も無く、ご父兄の感染はありましたが回復されました。日本人の70%がワクチン接種を済ませました。しかし接種済みの人も軽症ではありますが感染が起こります。これからの日常生活やSO活動の中でマスクや手洗いはこれからも続ける必要があります。年末にはコロナ感染経口治療薬が承認される情報もあります。そうなればコロナ感染をそれほど恐れる必要はなくなるでしょう。みんなで注意喚起しながら活動しましょう。



事務局長 八代伸子

SON・兵庫に関わらせて頂いてまだ2年、事務局長の重責に悪銭苦闘の毎日です。毎年トーチランに参加させて頂きましたが、SOについての知識もなく初めて実際の競技を拝見したのは、近畿ブロック大会とNG愛知でした。アスリート、ファミリー、ボランティアの方々の姿に心を打たれ、あまりお役に立てず心苦しい限りですが、私も一生懸命取り組むことが大事だと自分に言い聞かせて皆様のお力添えを頂き、何とか今日まで参りました。少しは現場のことも知らなければと思っています。機会があれば各市域にもお邪魔させて頂きたいと考えています。

尼崎プログラム



プログラム委員長  
光本庸佑

プログラム事務長  
小林久人

アスリート委員長  
山口洋一

新次代へのバトンタッチ

前尼崎プログラム委員長 喜多 敬

尼崎プログラムではかねてより創立20周年を期に次の10年を託すべき主要人事の若返りを鋭意進めてまいりました。そしてめでたく40才前後の6名にお願いすることになり、プログラム委員長として至上の喜びであります。今般本紙にこの内の3名を紹介いたします。メンバー全員は意欲旺盛で責任感の強い方ばかりです。しかし伝統ある尼崎プログラムを担うには何かと心労があろうかと思いますが、そこは関係者皆様のご理解と寛容のお気持ちでお支えいただきたくお願いいたします。



尼崎プログラム  
掲示板

自粛中の活動報告

神戸プログラム

甲南大マッチングイベントに参加



甲南大マッチングイベントに参加しました。2021年6月27日(日)に地域センターが主催する「CHIIKI(地域)×GAKUSEI(学生)マッチングイベント2021」に参加しました。ボランティア活動や地域連帯活動に参加したい甲南大生と、学生の受け入れを希望する地域団体との出会いと相互理解が目的です。Zoomで実施し、学生20名、地域団体18団体が参加しました。SON動画「3. アスリートを支えるボランティア」で活動を紹介しました。参加は1年生が多く、「地域貢献」「子供とかかわる」「体を動かす(スポーツ)」ボランティア希望者が多く見受けられました。学生から「必要な資格がありますか」「拘束時間はどれくらいですか」などの質問がありました。(橋本広報委員)

神戸プログラム

しあわせの村でドッジボール



7月に緊急事態宣言、まん延防止措置が解除され、しあわせの村で活動しました。健康調査後に「元気だった?」「久しぶり!」と色々な会話が飛び交いました。久々の運動という事で、芝生グラウンドで転がしドッジボールをしました。1ゲーム10分、円の中にはアスリートの皆さん。外はファミリーとボランティア。初めはボール1個でスタートしましたが、3回目からは2個に。水分補給をしながら4回行ないました。アスリートの皆さんの元気な声に嬉しさを感じ、元気をもらいました!みんなですると楽しい!コロナが終息していない今、不安な気持ちもありますが、感染予防策を行ない、今後も楽しく活動していきたいと思えます。(田崎コーチ)



神戸プログラム  
掲示板

姫路プログラム



「コロナ禍」で話題になった、星野源さんの「うちで踊ろう」に合わせて姫路のアスリートたちがそれぞれの家で色々なパフォーマンスを披露してくれたものをコラボ動画にしてみました。コロナにも負けないアスリートたちのパフォーマンスに元気もらいました。ダンス、手洗い、ドミノ倒し、音楽、ランニング、歌、ピアノなど多彩なアスリートの様子に、姫路プログラムのファミリーもボランティアもみんながほっこりしました。星野源さんと有森裕子さんにもコラボしてもらってます（笑）。

西宮プログラム



コロナが広がってから日曜日はSOのテニスをするのが当たり前だったのにそれが出来なくなってすごく残念です。SOのテニスがお休みの間は、家族でテニスの練習をしたり、自転車で西宮浜や宝塚に出かけサイクリングを楽しみました。家ではYouTubeでハンドクラップダンスや好きな曲を歌ったり踊ったりして体を動かすようにしています。それでもかなり体重は増えてしまいました。早くテニスが出来ようになって、コーチやみんなに会いたいです。それまでは家で体力作りをがんばろうと思います。

北神戸三田プログラム



みなさま、通勤・通学をこれまでどおり頑張っておられます。マスクや手洗いなどの新しい生活様式にも慣れてこられた様です。ただ、コロナ禍でSOを含む土日のサークル活動がお休みになることが多く体重が増えたという方や、ストレスがたまっている方が多いです。とはいえ、中には新しい楽しみを見つけた方々も、いらっシャいます。家族でテニスやマラソン、家庭菜園をしたり密を避けてハイキングや鉄道写真を撮りに行かれる方々がいらっシャいます。皆が、コロナ禍が落ち着き、活動が再開されることを首を長くして待っています。



北神戸・三田プログラム

明石プログラム



明石プログラムからは、アスリートを代表してお一人の方に活動休止期間中の様子をお伺いしました！休日には、お父さんと一緒にウォーキングをメインに外出をされているそうです。大中遺跡公園などの史跡、子午線・・・と、明石ならではのスポットを巡られています。「朝から体を動かしていると表情も良く、運動の大事さを実感しています」と語ってくださったのはお母さん。時々、通所先の事業所で卓球をすることもあったそう。スペシャルオリンピックスの活動が再開することを、皆さん楽しみに待っています。

東播磨プログラム



未曾有のパンデミックという事態に全世界規模で陥った社会、ハンディのある我が子とどう過ごすか、一年以上休止したプログラムをどう継続するかという課題に向き合っていく事になりました。ただハンディのある我が子に、スポーツという活動で社会参加してほしいという気持ちを切らさず、アスリートファーストという理念を守っていくことを改めて決意して活動していきたいと思います。

芦屋プログラム



兵庫県の新規感染者数も減少し11月1日から日常トレーニング再開を認められるようになりました。今回ご紹介するのは、競泳プログラムの「川崎太郎君」です。お父さんが数年前から外国へ単身赴任され、当初は寂しそうでしたが、お父さんのアドバイスがあったのか、自粛中でもお家のベランダで日に1~2時間位はダンベルや器具を使ってトレーニングに励み、足は顔の辺りまで上がり、腹筋に至っては洗濯板のように固く、万全の状態です。日常トレーニング再開を待っていました。

順不同

神戸プログラム



自粛期間中にオンラインプログラムを開催しています。ストレッチやスクワット等の簡単な筋トレ、音楽に合わせた体操を行ないます。外とは違ってたくさんは動きませんが家の中で動かさない体を少し動かすだけでも、たくさん汗をかきます。画面から、みなさんの「元気です！！」という声がたくさん聞けてうれしいです。  
(田村コーチ)

## 市域の広報委員長及び担当者



神戸プログラム  
橋本寛敏

神戸プログラムの橋本寛敏です。趣味は野菜作りとドライブとテニスです。家では3匹の猫と遊んでいます。広報の仕事は初めてですが、一生懸命頑張ります。皆さんの活躍をたくさん紹介していきますので、どうぞよろしくをお願いします。



尼崎プログラム  
戸井真由美

この度、尼崎プログラムの副広報委員長をさせて頂くことになりました、戸井真由美です。ボイスカウトで喜多さんとのご縁があり、スペシャルオリンピックスを知りました。2016年から尼崎プログラムの広報誌を年1回作らせていただいています。広報誌に掲載する内容を通してしかスペシャルオリンピックスのことを知らなかったのですが、まだまだわからないことが多いのですが、これからもよろしくお願い致します。



西宮プログラム  
三木尚美

西宮プログラムで広報を担当しております三木尚美と申します。三田市に住んでおり、息子が陸上競技に参加させていただいてもう12年になるファミリーです。常に感謝を忘れず、SOの素晴らしさを、より沢山の方々に知っていただき、元気と笑顔でプレーするアスリートがもっともっと増えて行くことを願って、活動していきたいと思っております。どうぞよろしくをお願いします。

文章を入力してください。



姫路プログラム  
柳井じゅん子

姫路プログラムのボランティアの柳井じゅん子です。姫路では陸上プログラムが再開され、久しぶりにアスリートの元気な姿見る事が出来ました。ランニングやフロアホッケー、水泳も緩やかに再開しているところなので、皆様に姫路の活動をアスリートの素敵な写真と共にお伝え出来るよう頑張ります。



明石プログラム  
吉田有希

明石プログラムで広報を担当しています、吉田有希です。アスリートのみなさんのスポーツを楽しむ姿やいろいろな表情に触れながら、活動の様子をお伝えしていきたいと思っております。私自身も楽しみながら、時にはいっしょに身体を動かしながら、広報活動できればと思っています。よろしくお願いたします。



芦屋プログラム  
小林繁夫

芦屋プログラムの広報を担当しています、小林繁夫です。SOと関わってからもう17年になります。当初は、アスリートのお世話をすることもなく、ただ自分の出来ることをと、写真ばかり撮っていたように思います。ところが、ファインダー越しに見るアスリートの表情が日に日に変わり、カメラを向けると、満面の笑みを見せてくれるようになりました。アスリートたちの、笑顔を見ることで、本来の「SO」を知ることができました。

順不同

## 編集後記

十五、六年程前になるでしょうか、SO・兵庫のニュースレター創刊号発行に関わらせて頂きました。当時は、まだまだアナログの時代だったので編集会議は全て対面で行ない、ワイワイしゃべりながら、楽しく意見交換をしていたように思います。今回のニュースレターは、コロナ禍の影響下で作業を進めておりますが、ニュース・ソースが少なく、皆様方が必死になって作っていただいた原稿で編集をしています。これから先、今はコロナ禍も落ち着いていますが、オミクロン株なる不穏な情報もあります。アスリートたちを話題にした対面の編集会議を早く開けることを願っています。

SON・兵庫広報委員会 小林繁夫



三木プログラム  
ブログ



SONhyogo  
ホームページ